

安・近・短な離島リゾート、初島

旅のチカラ研究所

2016年 12月

旅のチカラ研究所 植木圭二

相模湾の熱海沖に浮かぶ小さな島、ここが初島で熱海港から20分の船旅で行ける首都圏から最も近い離島だ。島ならではの解放感やリゾート感、海の幸が味わえるグルメなどが魅力だ。でも最大の魅力は近くて簡単に行けること。安・近・短ながらも船旅も楽しめる。温暖な島なので一年中花が咲き乱れ、相模湾の真珠とも呼ばれている。

この初島に会社員時代の群馬県人会メンバーの男4人で行った。

■船旅の開始は海鳥が歓迎

熱海港から20分の船旅は、まず海鳥たちの大歓迎を受けることになる。



振り返ると、斜面に建物が立ち並ぶ熱海の街の向こうに雪化粧した富士山が頭半分を出して見送ってくれる。白いバケツを逆さにしたように見えるのも面白い。

大げさだが、日本を離れて南の島に行くのだという気持ちにさせてくれて、非日常への解放感が味わえる。乗船費用は片道：大人 1300 円、小人 650 円。



■ 島をひと回り

最高標高 51m、周囲 4km と平坦な島なので歩いても一時間ほどで一周でき、海と島内の景色を眺めながらの散歩も楽しめる。漁港、神社、リゾート施設、ホテル、灯台もあって島に来たという感じになる。都会の喧騒から離れて非日常を楽しむには最適で、いい年をした県人会メンバーははしゃぎまわっている。

専用のハーネスを着用して樹の上を渡っていく本格的なアスレチック施設「SARUTOBI」もある。海の景色を眺めながら木々の間を通り抜けたりする約 1 時間の冒険が楽しめるという。

海水浴場はないが、夏はシュノーケリングやプールを楽しむこともできる。自然に親しむというテーマで訪れるにはそれなりの準備をしていくことがお勧めだ。

201 人の島民が生活している島なので小中学校もある。内地で見かける学校とも違い、小さいながらも独特の雰囲気がある。島に住む子供たちの生活というものを感じさせてくれる。

リゾートアイランドとして開発すると人工島ようになってリゾートと観光だけの島になってしまうところも多いが、人々の生活を感じさせてくれる素朴さが残っているのもとても嬉しい。



■ アジアンリゾート

芝生にフェニックス、南の島の楽園を思わせるアジアンガーデンがある。ビール片手にハンモックでゆっくりするのも楽しそう。ここにはアウトドアを満喫できるようにキャンピングトレーラーで宿泊することもできる。宿泊設備や BBQ 設備、食材も用意されており手ぶら来ても楽しめるという。



■海岸の露天風呂は最高

海岸近くに日帰り入浴が楽しめる「島の湯」がある。早速、おじさん4人で入浴だ。

この風呂は温泉法で規定されている成分が入っていないので残念ながら温泉と名乗ることはできないが、海の近くとあって少し塩気があって多くのミネラル分を含んでおり、何となく温泉だ。

海岸のすぐ近くの露天風呂は最高のローケーション、目の前には伊豆大島が大きく見える。

■グルメ

港のそばには食堂街があり17軒の食堂がある。どこに入ろうかと迷っている間にどんどん席が埋まってしまう。昼どきにはどの店も満員になる盛況ぶりだ。

メニューは海鮮丼を中心に丼ぶり物が多い。それは毎年2月3月に、食堂対決の丼ぶり合戦というものが催されるからである。味はもちろんのこと店ごとに盛り付けや名前などいろいろ工夫をしており、相模湾でとれた新鮮な海の幸が楽しめる。今回はイカ丼をご馳走になったが、もちろん旨い。



■本当に身近な、離島リゾート

わずか3時間滞在だったが、短時間でもこれだけ楽しい島の体験ができた。

おじさん4人はこの後に熱川温泉に行って一泊したが、安・近・短の初島は首都圏から日帰りも可能だ。すぐ近くの熱海温泉や伊東温泉泊まりも良い。島内のリゾートホテルや民宿に泊まれば、もっとのんびりできるので島内泊もお勧めだ。釣りやダイビングを面白そう。

往復乗船+アジアリゾート入園+島の湯のお得なセット券を利用した。大人3700円、小人1850円。

2016年12月16日訪問